

2024年2月4日

## 2024年度 大学院経営管理研究科

### 経営管理専攻 修士課程

入学試験 (経営管理プログラム／ホスピタリティ・マネジメント・プログラム)

#### 【小論文試験問題】

以下の文章と図表は、フィリップ・アギヨン、セリーヌ・アントニン、サイモン・ブネル著『創造的破壊の力ー資本主義を改革する22世紀の国富論』から抜粋したものである（抜粋に際して、一部の小見出しを省略するとともに、文章の一部を改変している）。

この文章を読んで、以下の全ての問いに答えなさい。なお、解答にあたっては、全て日本語で書くこと。

- (1) 下線部 (A) の「中所得国の罨」について、それがなぜ生じるのかについて、本文の内容に沿って、300字以内で説明しなさい。ただし、技術の最前線、キャッチアップ、イノベーション、競争という4つの言葉を必ず使い、使用した箇所には下線を引くこと。
- (2) 下線部 (B) の「生活水準は先進国の水準に収束してきたのだろうか」という問いについて、図1と図2の図中の直線が共通して右下がりであることから言えることを、図の横軸と縦軸が何を示すかに言及しながら、250字以内で説明しなさい。  
なお、図中の直線は各国の平均的傾向を示す直線（最小二乗法を用いて各国を表す点との距離の二乗の合計が最小になるように引いた直線）である。
- (3) 下線部 (C) について、なぜ生活水準のきわめて低い国々は、停滞したり成長が落ち込んだりするのかを250字以内で説明しなさい。
- (4) 下線部 (D) について、その後の文章で、筆者らは、資本の収穫逡減の法則に基づく説明では上手く説明できない経験的事実として、以下の①と②を挙げている。この①と②について、資本の収穫逡減の法則に基づく説明ではどのようにになると予測されるのかを、その理由とともに、それぞれ130字以内で説明しなさい。

- ① 1700～1978年についてランダムに20年の期間を選んだとき、OECD加盟国の半分以上で、1人当たりGDP成長率は後半10年間のほうが高い。
- ② 富裕国から発展途上国に資本が流入するのではなく、発展途上国から富裕国へ資本が流出している。

【文章】

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

この部分の文章・図表は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分の文章・図表は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分の文章は、著作権者の許諾を受けていないため、現時点では掲載することができませんので、ご了承ください。

出典：フィリップ・アギヨン、セリーヌ・アントニン、サイモン・ブネル著『創造的破壊の力ー資本主義を改革する22世紀の国富論』東洋経済新報社、2022年、pp.167-182。